

## 地域情報 P F・中間標準レイアウトの利用にあたって

2019年6月吉日

株式会社 BSNアイネット  
公共事業本部  
川崎 浩司

IPAオープンソースソフトウェア活用基盤整備事業にて地域情報 P F 実装実証報告

<https://www.bsnnet.co.jp/information/news/000155.html>

## 背景：

- ◆ベンダーロックイン問題解消としての期待
- ◆EA化(現状の業務と情報システムの全体像を可視化し、全体最適化を行うためのフレームワーク)

## 実証目的：

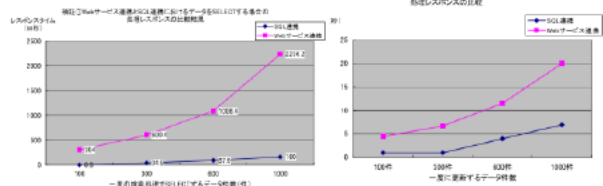
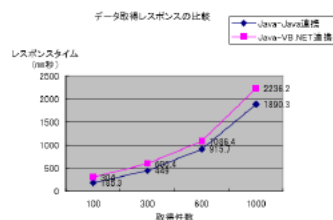
- ◆地域情報 P F 普及推進への課題整理
- ◆概念を実装化
- ◆普及を目指しオープンソース化

## 実証内容：全てOSS実装

- ◆統合DB構築
- ◆共通基盤構築
- ◆文字コード変換機能構築
- ◆職員認証構築
- ◆データ連携の課題と解決

### △連携フォーマット

- 異言語間連携(Java⇔VB.NET)
- ×SOAPレスポンス&負荷検証
- 暗号化性能評価



・連携I/Fは項目肥大化レスポンスに影響。項目を絞り適用。

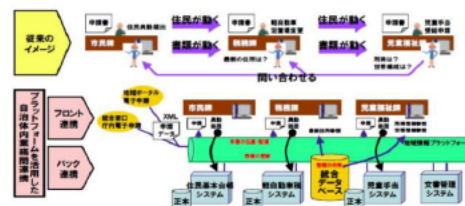
・SOAP連携はレスポンスを考慮適材適所に。オンライン連携は実用範囲内。

## 振返りの所感： (2019)

EAとして優れたフレームワーク。実装評価で満足できる内容となり経費抑制も可能。

適

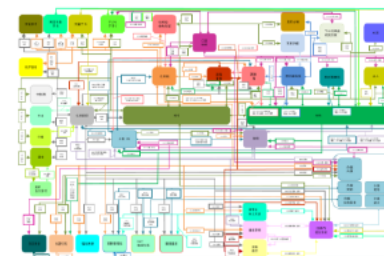
窓口ワンストップサービスを異ベンダーシステムで構築する場合に、フロント業務の連携に威力を発揮



※財団法人 全国地域情報化推進協会「地域情報プラットフォーム基本説明書Ver. 2.0」より引用

不適

バックヤード側の連携にはフレームワーク以前に、業務特性からくる難易度が課題



業務関連図：BSNアイネット作成

システム側要件も業務間で複雑に絡まる

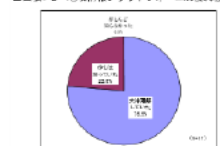
## 普及活動：

- ◆オープンソースとして全て開示
- ◆本実証成果の自治体へのアンケート実施

■図表5-1 調査した市・区人口総数



■図表5-2 地域情報プラットフォームの認知度



■図表5-4 汎用基盤OSSで実装したことの非効率



## 経過：

- ◆利用シーンに恵まれず
- ◆独自仕様が蔓延

# 利用シーンに恵まれない（無い）

## 地域情報 P F（庁内）

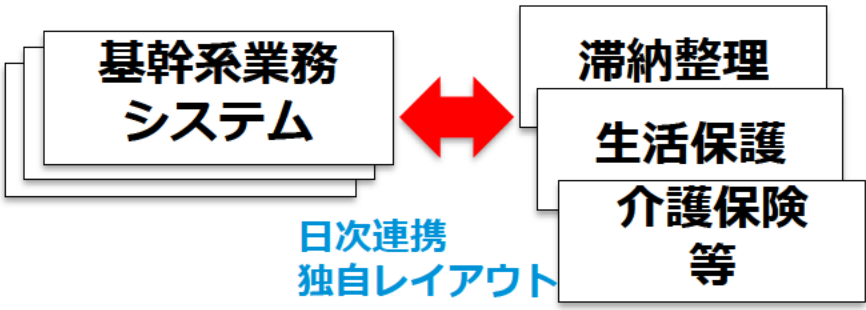
1. ワンストップサービス・共通基盤導入案件が**希薄**



このケースは  
なかなか無い

※財団法人 全国地域情報化推進協会「地域情報プラットフォーム基本説明書Ver.2.0」より引用

2. 専門性の高い業務 P K G との連携は多いが...



- ・ 即時性があまり無い。住基だけ準即時連携で十分。
- ・ 地域情報 P F の I / F はデータ過大で双方が負担増
- ・ 双方が独自レイアウトで実績を積んでおり安心

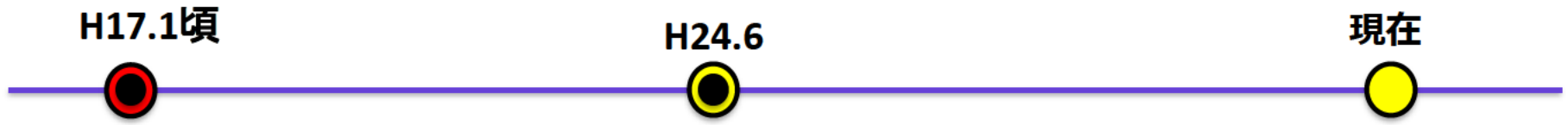
➡ **出番に恵まれず**

## 地域情報 P F（外部連携）

1. 他機関との外部連携で I / F 適用が**ゼロ**

県  
年金機構  
国保連  
広域連合  
農林公社  
金融機関  
医療機関  
等々

# 中間標準レイアウトの利用シーンがまだ無い

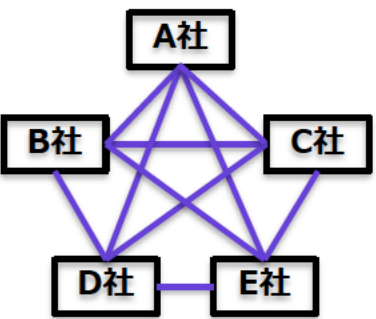


平成大合併

中間標準レイアウト  
V1.0公開

5年で他ベンダーへ切替える  
場合に利用シーンが増える

構築経費に「5年後の中  
間標準レイアウトによる  
データ切出し経費も含め  
る」調達仕様へ



ベンダー切り替え時に、新旧ベンダー間で実績のあるレイアウト  
での移行が主となっている。

ベンダー間でデータ移行  
の事例が多数発生

(あくまでも当社PKGによる移行実績です)

◆国保標準システムにて国保賦課・資格の2業務利用。住基・宛名・収納は連携。

○ 移行ファイル 64ファイル ⇒ 全て中間標準レイアウト

✕ 連携ファイル 44ファイル ⇒ 全て独自レイアウト（と思われる）



中間標準レイアウト通りにデータを作成しても、当社と標準システムの**設計思想の違い**から導入にあたっては「**相当なデータ加工チューニング**」を施している。



ある程度の効果はあるが、**万能ではない**。過度な期待は危険。

## 人にi。街にi。未来にi。

もっと人に身近なIT、もっと街をイキイキさせるIT、もっと未来を豊かにするIT。  
BSNアイネットは、ITがつくりだす、理想的な社会を目指して取り組んで参ります。

株式会社 **BSNアイネット**

